

# 第1学年国語科学習指導案

日 時 2021年12月1日(水) 5校時

1. 単元名 のりもののことをしらべて、「のりものずかん」をつくろう  
「いろいろなふね」(東京書籍 1年)

## 2. 単元の目標

○事柄の順序などの情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2) ア

○事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1) ア

○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1) ウ

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

## 3. 単元で取り上げる言語活動

○学校図書館などを利用し、乗り物のことを調べて「のりものずかん」を作る活動。

## 4. 図書館活用で身に付けたい力

○「のりものずかん」を作ることを通して、文章の中の重要な語や文を考え、選び出すことができる力。

## 5. 単元について

### (1) 教材について

本単元における重点指導事項は、学習指導要領における[思考力、判断力、表現力等]の「C 読むこと」(1)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」である。

本単元では、教材文「いろいろなふね」を用いる。「いろいろなふね」は、特徴的な機能を持った四種類の船を例として取り上げ、役目や構造、装備などについて説明した文章である。四種類の船の例示が、同じ文章構成・同じ文型で説明されており、叙述に即して内容を正確にとらえるのに適している。

また、乗り物という題材は児童にとって身近なものであることから、興味や関心をもって学習に取り組みやすいと考える。児童が「のりものずかん」を作る際にも、わかりやすいカードを作るには、教材文と同じように表現すればいいということがわかり、図書館に置いてもらうという楽しみ(目的)があることから、単元全体を通して自分の表現に活かすことに直結する単元であると考えられる。

(2) 児童について

省略

(3) 指導について

児童は1学期に、説明文「どうやってみをまもるのかな」を学習し、「問い」と「答え」について見つけることを学習しており、今回が2回目の説明文である。1年生で学習する説明文の教材文は、どれも児童の興味や関心を引く内容（動物・乗り物など）を扱っている。また、写真も多く、児童が喜んで読み進められるように工夫されている。

本単元では、まず、四枚の写真と船の名前を対応させて、それぞれの船のことがどの段落に書いてあるのかを確かめさせよう。四つの例示（船）について読みとっていく。それぞれの船については、三つの観点「役目・・・何をするための船か」「つくり・・・何があるか・何を積んでいるか」「できること」を、それぞれ読みとらせる。その際、何をするための船で、そのためにどんな作りになっているのか、という、「役目」と「つくり」の文の関係を確認しながら、読みとらせるようにしたい。

また、読みとるときには、三つの観点が書かれている部分に色分けして線を引かせ、すべての船について「役目」「つくり」「そのふねでできること」が説明されていることに気づかせやすくしたい。この四つの船についてカードにまとめる活動を通して、読みとる際に着目する言葉や抜き出した大事な文のまとめかたを理解させると同時に、後半の「のりもの図鑑」作りの見通しを持たせたい。

教材文での読みとりの、学習を生かして、後半では自分が興味のある乗り物について調べ、カードに書く言語活動を行う。その際に、教材文で学習した2つの観点（「やく目」と「つくり」）について図鑑や絵本などから読みとっていくことを押さえておく。スムーズに活動に入れるよう、あらかじめ、関連図書を集めて教室内に「のりものブックコーナー」を設置し、児童が乗り物についての本を手に取りやすい環境を整え、単元の導入から並行して読ませたい。

本や図鑑の中には、教材文とは違う文型のものがあることが予測される。児童の実態に合わせて、いろいろな本を準備し、文章の中から観点到る情報を探し出したり、写真や絵からも情報を集めたりするようにし、読み取る力を高めていきたい。基本は個人で活動を行うが、困った時や迷った時にはいつでも児童同士でアドバイスし合ってもよいことを確認する。児童同士のアドバイスを見守りながら、担任と学校司書も適宜個別に具体的なアドバイスを行っていきたい。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア	① 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら内容の大体	これまでの学習を生かして見通しを持ち、いろいろな乗り物について、積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、

	<p>を捉えている。</p> <p>C(1) ア</p> <p>② 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</p> <p>C(1) ウ</p>	<p>「のりものずかん」にまとめようとしている。</p>
--	--	------------------------------

7. 単元の指導計画と評価計画 (全10時間 本時 7/10)

次	時	主な学習活動	評価規準
事前		学校司書、学校図書館、町立図書館を活用して乗り物の本や図鑑を準備し、関心を高めしておく。	
一	1	<p>○学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな乗り物が好きか、どんなところが好きか等を自由に出し合う。</li> <li>・「のりものずかん」の見本を基に、学習の計画を立て、自分がみんなに紹介したい乗り物を決める。</li> </ul>	
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文「いろいろなふね」の全文を音読し、文章の内容の大体および全体の構成(はじめ・なか・おわり)をつかむ。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現①】</p> <p>「いろいろなふね」の全体の構成をつかむことができる。(発言・教科書に引いた線を確認する)</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きゃくせん」について書かれていることを読み取り、「のりものカード」にまとめる。</li> <li>・並行読書をし、自分が紹介したい乗り物を決める。決まっている場合は、「のりものカード」に書く内容を考える。</li> </ul>	
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フェリーボート」について書かれている内容を読み取り、「のりものカード」にまとめる。</li> <li>・「・・・は、・・・のための・・・です。」の短文作りをする。</li> <li>・並行読書をし、自分が紹介したい乗り物を決める。決まっている場合は、「のりものカード」に書く内容を考える。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <p>「やくめ」と「つくり」について、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(ワークシート・発言)</p> <p>【思考・判断・表現②】</p> <p>文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(ワークシート・発言)</p>

	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぎょせん」と「しょうぼうてい」を読む活動を通して、「きやくせん」と「フェリーボート」の表現と同じ部分と違う部分を比較しながら読み、客船やフェリーボートと同じようにのりものカードにまとめる。</li> </ul>	
三	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が紹介したい乗り物を選んで、「のりものカード」に絵をかく。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現②】</p> <p>文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(情報カード・のりものカード)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>これまでの学習を生かして見通しを持ち、いろいろな乗り物について、積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、「のりものずかん」にまとめようとしている。(発言・行動観察)</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やくめ」「つくり」と、「みんなに伝えたいこと」を、図書資料から選び出し、情報カードに書き出す。</li> </ul>	
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がみつけた「やくめ」と「つくり」がつながっているかを、グループで確認し合い、「のりものカード」にまとめる。</li> </ul>	
四	9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が作った「のりものカード」を、実物投影機で見せながら、クラスで発表しあう。</li> <li>・友だちの発表の良かったところや面白かったところなどの感想を伝えあう。</li> <li>・みんなで作った「のりものカード」をまとめ、図鑑にする。</li> <li>・学習の振り返りをする。</li> </ul>	

8. 本時の学習

(1) めあて

- ・自分が紹介したい乗り物について、3つの観点に沿って読み取ったことを、情報カードに書きだすことができる。

(2) 展開

時	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点(・)と教師の支援(◎担任・●学校司書) ☆評価
0	1. 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             じぶんがしょうかいしたいのりものの「やくめ」「つくり」「さらに自分が伝えたいこと(ひみつ)」をみつけてカードにかこう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返り、いよいよ自分たちの図鑑のページを作るという期待感を持たせる。</li> </ul>
5	2. これまでのことを思い出しながら、どんなことを調べるか確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「役目」「つくり」「さらに自分が伝えたいこと(ひみつ)」を調べることを確認させる。</li> </ul>
10	3. 「情報カード」の書き方がわかる。出典の扱いについて、学校司書の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の抜き書きをする場合には、出典を書かなければならないことをおさえる。</li> </ul>
15	4. 選んだ乗り物について図書資料から、「やく目」「つくり」「伝えたいこと」を見つけ、情報カードに書き出す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・やくめはこれかな。</li> <li>・ぼくはこのひみつをみんなに教えたいよ。</li> <li>・「ための」って言葉を探せばいいのかな。</li> <li>・一人でみつけるの、難しいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用意しておいた図書資料には事前に目を通しておき、役目やつくりが書かれている部分を把握しておく。</li> <li>◎図書資料がなかなか読めない児童は、寄り添いわかりやすい言葉で聞き返しながらか一緒に読むようにする。</li> <li>●子どもの読む力等の実態に合った本を紹介する。</li> <li>・調べる意欲を大切にするため、まとめかたが基本文型に合わなくても抜き書きでもよいことにする。</li> <li>◎●「やく目」やつくりがまとまらない児童には、「この乗り物のお仕事はなんだろう？」などわかりやすい言葉で聞き、考えさせたり、「～ための」など、キーワードをおさらいしたりする。</li> <li>・困った時や迷った時にはいつでも児童同士でアドバイスし合ってもよいことを伝える。</li> </ul>

40	5. 振り返りを行い、次時への見通しを持つ。	☆文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(ワークシート・発言)
----	------------------------	-------------------------------------

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
自分が紹介したい乗り物の「やく目」「つくり」「さらに自分が伝えたいこと(ひみつ)」を見つけ、「情報カード」に記録することができる。	自分が紹介したい乗り物の「やく目」「つくり」を見つけ、「情報カード」に記録することができる。	「やく目」や「つくり」を表す言葉を確認する。

(4) 研究の視点

- ・「情報カード」は、必要な情報を見つけるための視点となり、自分が選んだ乗り物の情報(やく目、つくり、ひみつ)を容易に整理するために有効であったか。

9. 研究協議の概要

参加者	校内 12名、校外 3名 計 15名
授業及び研究協議の概要	<p>〈授業について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ乗り物について、図書資料から選び出した重要な語や文を使って、「のりものずかん」を作る活動を行った。</li> <li>・教材文を通して学んだ情報活用能力を活用して「やくめ」「つくり」「伝えたいこと」を情報カードに書き出す活動を行った。</li> </ul> <p>〈協議〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「のりもの」に関する図書資料が豊富にあり、しかも子どもの実態に応じて難易度にも対応できるものであったため、児童の意欲が継続していた。</li> <li>・教材文でしっかりと説明文の構造の読み取りを行っていたので、それを活用して図書資料から必要な情報を選び、選択することができていた。</li> <li>・学校司書と連携し、関連図書を豊富に集めた「のりものブックコーナー」が設置されていた。児童が本を手に取りやすい環境が整えられており、児童も自分に必要な本をじっくりと選ぶことができていた。</li> <li>・「やく目」と「つくり」の関係性=情報と情報の関係性を全体でおさえておくことが必要であった。ペアで関係性を考え合う場面があってもよい。</li> </ul>

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・写真から情報を取り出す児童もいた。それに対しては「じゃあ、それはどこに書いてある？」のと問い返すことで文に意識がいくようになる。</li><li>・図鑑を作るという単元を貫く言語活動があった。授業者が①どのようなことを学ばせたいのか、②そのためにはどんな言語活動を設定するのかを考えていくことが大切である。</li></ul> |
|--|--|